

日本社会医学会

# 社会医学研究レター

Vol.12No.2 2004年5月

発行/日本社会医学会事務局 (滋賀医科大学予防医学講座)

## 日本社会医学会役員選挙告示

日本社会医学会選挙管理委員長 関谷栄子

会則第5条に基づいて第2期評議員の選挙を別紙の要項で実施いたします。新たに選出される評議員の任期は2004年7月1日から2007年6月30日までの3年間です。評議員は、理事の選出を担当するとともに、任期中の運営を担います。会意の熱意ある投票をお願いいたします。

2004年5月21日

## 第45回日本社会医学会学術総会

企画運営委員長 原田規章

(山口大学医学部衛生学教室)

— 参加申込と演題募集のご案内 (第2報) —

第45回日本社会医学会学術総会を下記の要領で開催いたします。今回は総会会場と宿泊施設を同一とし参加者の交流を深めることに配慮しました。多数の皆様方のご参加をいただきたくご案内申し上げます。

- ・ テーマ：健康権とは何か。人権としての健康を社会医学から考える
- ・ 主題：基本的人権である健康権（保健・医療・福祉）が「構造改革」の名の下に後退している。人々に提起される新たな健康の課題にどのように向き合うのか。

社会医学の役割は健康権の実現、健康権の向上と言える。一人ひとりが健康で幸せになる社会をどう目指すのか、議論の場にしたい。

詳細は次頁

2004/5/20  
送付

## 第45回日本社会医学学会学術総会 詳細

### 1) 学術総会日時

7月24日(土)13時～7月25日(日)15時(予定)  
(理事会:23日19時～21時、  
評議員会:24日11時～12時)  
前日懇親会:7月23日(金)20時～22時

も)、またはE-mailの添付ファイルでお送り下さい。フロッピーやE-mailの場合はできるだけword-fileをお願いいたしますが、一太郎も可です。

### 2) 特別講演(予定)

人権としての健康、カナダにおける労働衛生活動シンポジウム(予定):  
市町村合併と地域保健の課題、軽症障害者の地域リハビリ、医療費・年金の構造破綻と課題、不安定雇用の現状と労働者の健康

### 7) 費用

<参加費>  
会員3,000円、非会員4,000円、  
学生・院生:会員1,000円、非会員2,000円  
<宿泊(1泊3食)>  
1日あたり1万円(23日の夕食は20時まで可)  
<昼食のみ>  
1食あたり1,000円  
<前日懇親会>  
2,000円

### 3) 学術総会場所

宿泊・食事含めて、「いこいの村江汐(えじお)」  
(山口県小野田市千崎東) Tel:0836-84-2323、  
Fax:0836-84-6223、HP:http://www.ejio.net

### 8) 交通

山口宇部空港、新幹線各駅については送迎バスを運行予定  
・山口宇部空港:東京1時間30分(1日8便)  
・新幹線JR新山口駅(旧小郡駅):名古屋3時間、大阪2時間、福岡40分  
・新幹線JR厚狭駅:新山口駅から15分、博多駅から40分  
・会場:新幹線JR厚狭駅から車10分、JR小野田駅から車5分、山口宇部空港からJR40分

### 4) 参加および発表の申し込み

別紙申込書を、郵便、Fax、E-mailのいずれかでお送り下さい。  
演題申し込み締切り:2004年5月20日  
抄録締切り:2004年6月20日  
参加申し込み締切り:2004年6月20日  
自由集会締切り:2004年6月20日

※不明な点は事務局までお問い合わせ下さい。

<事務局>  
〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1  
山口大学医学部衛生学教室 井上正岩  
Tel:0836-22-2229、Fax:0836-22-2345、  
E-mail:masaiwa@yamaguchi-u.ac.jp

### 5) 一般口演は1題23分(発表15分、討論8分)。

PCプロジェクト(windows)、OHP使用可。  
要望演題:  
保健・医療・福祉、地域、学校、職域、精神、歯科、薬害、環境、公害、労働、教育

※演題・参加申込用紙は下記のHPにあります。HPからの申し込みも可能です。

HP: <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/eisei/index>

### 6) 抄録

A4版用紙2枚。上下左右に2.5cmの余白をとり、ワープロまたはパソコンを用いて作成して下さい。フォントは明朝体、演題名は12ポイント、氏名、所属、本文は10.5ポイント。行数は40行程度で、文字数は1行40字程度(2段組可)。ご送付頂いた原稿はそのまま印刷致します。印字品質には十分ご注意願います。締め切りは、2004年6月20日。事務局まで郵便(可能ならフロッピー



## 議事録

### 2003年度第1回理事会

日時 2003年10月21日(水) 18:30 - 20:15

会場 同志社大学・今出川キャンパス (京都市)

出席 逢坂、田村、千田、西山、仁平、

欠席 上畑、片平、黒田、関谷、埜田、多々羅、波川、福地、宮尾、山崎、山田

#### [審議]

#### 1. 第45回総会企画運営について

総会開催日については、原田評議員に一任することになった。

#### 2. 日本社会医学会奨励賞(第1回)候補者について

奨励賞候補者を決定した。候補者に受賞の諾否を問い合わせ、受諾意思が確認された候補者を受賞者としてレター等で公表するとともに、第45回総会(山口)で授賞式を開催することが確認された。奨励賞を褒賞することははじめてのことであり、選出基準や手続きなどについて試行錯誤的にすすめるが、指針等の詳細のできるだけ早い制定を目指すことが申し合わされた。

#### 3. 今後の学会体制のあり方について

#### 4. 次回理事会

名古屋で開催される日本産業衛生学会時に開催することになった。

## 議事録

### 2003年度第2回理事会

日時 2004年4月15日(木) 12:00 - 13:30

会場 名古屋国際会議場 (名古屋市)

出席 阿部、上畑、埜田、田村、西山、原田、広瀬、福地、宮尾、山田

欠席 逢坂、片平、黒田、関谷、多々羅、千田、波川、仁平、山崎

#### [報告事項]

#### 1. 第45回学会総会開催準備状況

原田実行委員長より開催準備状況の報告があった。

#### 2. 第46回学術総会開催準備について

広瀬現地世話人より報告があった。

#### 3. 社会医学雑誌編集状況について

宮尾理事より現在の投稿原稿数および査読進行状況が報告された。

#### 4. その他

西山理事長より、事務局業務を外注すると仮定した場合の業者見積が紹介された。

#### [審議事項]

#### 1. 第2期選挙準備状況

選挙管理委員会を、関谷理事、山崎理事、阿部評議員で構成し、関谷理事が委員長として選挙を行う旨、阿部評議員より報告された。

選挙方法は、第一期選挙時に定めた規定により、会員10名に対して評議員1名を選出する。地域別に定数を定め、選挙実務は選挙管理委員と事務局が相談して行うことが確認された。

#### 2. 次回理事会

7月23日に山口で開催することになった。

# ヒューマンサービス 労働研究の視点

淀協社医研 重田博正

最近労働医学の分野で、福祉や教育、医療労働など人を相手にする仕事を、少し厳密に言えば人々の発達や人権を保障する労働をヒューマンサービス労働と総称する研究者が増えつつあるように思う。これは単なる呼称の問題ではなく、それらの職種に共通した健康問題の枠組み設定を意識した概念であると考えられる。

## なぜそこまで働くのか

例えばこんな問題がある。保育士の頸肩腕障害や腰痛症の労災申請の資料などで、その労働実態を他産業の労働者が知ったとき、なぜ彼女たちは身を粉にしてそこまで献身的に働くのか、と問題を投げかけることがよくある。この「なぜ」に対して「労働者としての権利意識が弱いためだ」との説明だけでは皮相的である。ここには正にヒューマンサービス労働に共通する労働負担要因の特徴がある。

①労働の中核をなす対象者とのコミュニケーション過程がストレスを生み出す過程であると同時にやり甲斐の源泉にもなるという二面性、②そのことと関連して疲労蓄積が進行しても「労働意欲の低下」が起りにくいということ、③頑張ることのみが過大に評価される職域文化、④対象者を理解すればするほど深く広がっていく福祉や教育の「課題」の社会性、等が共通の特徴として指摘できる。

## 持ち込まれた課題

特に最後の「課題の社会性」という問題をどのように整理するかが重要である。例えば保育の場合、今日の保育要求は、1960年代から70年代にかけて「ポストの数ほど保育所を」というスローガンで保育運動が進められていた時代とは大きく変貌している。その一つとして保育時間の問題がある。12時間を超えるような長時間保育、夜間保育、休日保育等が、多様化した

親の要求に積極的に応える保育として進められている。この政策対応は、一方で労働基準の規制緩和で長時間・不規則・不安定労働を拡大しながら、その「結果」を保育所の「課題」として持ち込んでいるものと言える。しかも労働時間の規制緩和の「結果」は、単に保育時間要求として表れるだけでなく、同時に子どもたちの生活をゆがめ、発達課題を複雑にし、この面でも保育士の負担を増大させている。

## 背景にせまる研究の視点

このような問題は、老人や障害者の生活問題とホームヘルパーの負担、教育困難と教師の負担、等々、福祉や教育、医療の労働者が悪戦苦闘している問題に普遍的に認められる。その基本的性格は、労働基準や住宅政策、地域環境政策、その他労働者・国民の労働と生活を支える政策の欠落・不十分さから生まれている問題であり、本来福祉や教育だけでは対応できない問題である。しかも国民の権利保障という観点からすれば、福祉や教育の課題としてよりも、問題の根っこで対処すべきものと言える。新自由主義の下で国民の労働と生活の基盤が大きく崩れつつある現在、以上のような視点を明確にした研究と実践が、ヒューマンサービス労働の社会医学として強く求められている。

## 編集後記

季節はすがすがしい頃となったのに、社会情勢は全く逆である。イラクにおける米軍の虐待事件、年金をめぐる国会での議論や議員の様子。前者は、戦争の非人間性をおぞましいほどに示し、後者は国民生活の実態からかけ離れた政治の現状を示している。人権や生存権という言葉を改めて噛みしめている。今年の学会は、人権としての健康がテーマとして設定されている。

多くの会員諸兄と熱く議論がしたいものだ。

